

# 第10回全国和牛能力共進会碁盤乗り披露報告

## 岡山県立新見高等学校

平成24年10月22日～28日間の日程で長崎県で開催された第10回全国和牛能力共進会での碁盤乗り披露について報告します。

全国和牛能力共進会とは、全国の優秀な和牛を5年に1度、一堂に集めて優劣を競う大会であり、雄牛・雌牛の和牛改良の成果を競う「種牛の部」と肉質を競う「肉牛の部」に各道府県から選抜された約500頭が出品されます。審査結果が和牛のブランド化に大きく影響することから、各道府県の威信をかけた非常に重要な大会と位置づけられています。昭和41年の第1回岡山県大会から始まり全国各地で開催されてきました。

このような歴史のある大会に、新見市の伝統調教技術である牛の碁盤乗り披露の依頼が舞い込みました。碁盤乗りとは、縦45cm、横42cm、高さ30cmの碁盤の上に体重500kg以上の牛を乗せるというもので、新見地域に古くから伝わる伝統技術の1つです。和牛は、現在肉用牛として高い評価を得ていますが、かつては役牛として多くの農家で飼育されていました。畑を耕すなどの農作業を牛の力によって効率よく行うために、牛を人間の指示通りに動かせるように行儀を教えること、すなわち調教を行ってきました。調教とは、前進、後退、停止、左回転、右回転などを人間が操作する牛の鼻に結わえた綱とかけ声によって自由に操る技術のことで、これを基礎調教といいます。実際は使役や管理の点では基礎調教だけで十分ですが、佐野民三郎氏によって碁盤乗り、橋渡し、敬礼という高等調教が考案された歴史があります。

そこで白羽の矢が立ったのが9才になるひなた号でした。ひなた号は、綱に忠実で賢い牛です。参加生徒は、2年生4名、1年生1名の5名で披露することとなりました。また、岐阜県加茂農林高等学校から本年度も碁盤乗り調教を習いに来られ、はるみ号の調教に成功され長崎会場で2校による初めての碁盤乗り披露となりました。そうと決まれば練習も休日や場所を変えて熱心に取り組み、本番に向けて

準備を進めていきました。長崎会場で生徒は、岡山県の農家さんと牛舎作業を行いながら牛鼻かんの付け方やロープワークなどを学び、地域の伝統技術が生徒へ伝授されていました。また、空いた時間には最新の農業機械や飼料の見学も行うなど有意義な時間を過ごすことができました。

本番当日は、周りの方々が緊張する生徒に笑顔で話しかけたりしてくださり、地域の暖かい心遣いを身にしみて感じることができました。そして、緊張の中、各生徒が自分の役割を果たし無事に2頭同時の碁盤乗り成功に会場から大きな拍手をいただき、地域の方は涙を流して祝福してくださいました。



ひなた号の碁盤乗り

最後に、ご支援ご協力いただきました方々に深く感謝申し上げます。